

ピアスアレルギー

Takahashi Tomoyuki

高橋 知之*

Takahashi Mariko

高橋真理子*

Aoki Moto-o

青木 基夫**

* 高橋医院

** 青木医院

Summary

ピアス経験者は未経験者に比べて金属アレルギーである確率が高く、金と言えども例外ではない。すでにピアスをしている人は、パッチテストでアレルゲンを同定し陽性となった素材を避けてピアスを選ぶ必要がある。これから始める人は、耳垂の厚さにあった長さのファーストピアスと適切なケアで短期間に孔の上皮化を図ることが大切である。ファーストピアスの素材については、ステンレスを純チタン処理したものがセラミック製が望ましい。

Key Words / ピアス, 金属アレルギー, パッチテスト

はじめに

ピアス式イヤリング(以下、ピアス)の普及に伴って、ピアス皮膚炎と呼ばれる種々の合併症が増えている。閉塞することを恐れて上皮欠損した孔に長期にわたってピアスを装着し続けると、やがてはピアスの素材を構成している金属に感作される。過去にピアス皮膚炎を経験した人がピアスをする場合は、パッチテストで金属アレルギーの有無を確認して感作されている金属があれば、それを避ける必要がある。

今回、ピアスの経験の有無による金属アレルギーの頻度差を調査したので報告し、ピアスアレルギーの特徴と対策について述べる。

I. 対象と方法

金属製装身具や皮革製品による接触皮膚炎を主訴として、1996年11月から6カ月間に当院(高橋医院)を受診し、表1に示した日常生活で

接触する機会の多い15種類の金属(17試薬)に対するパッチテストを受けた女性3,527例(ピアス未経験者1,872例, 経験者1,655例)を対象とした。試薬がワセリン基剤のものは半米粒大、水溶液のものは1滴をパッチテスト絆創膏(ミニプラスター・鳥居薬品)に付着させて前腕または上腕の被験者が視認できる部位に24時間貼布し、1週間後に全面紅斑(または、それ以上)を認めたものを陽性とした。

II. 結果

未経験者1,872例のうち、いずれかの金属に陽性であったのは174例で、陽性率は9.35%(174/1,872)であった。一方、経験者の陽性率は19.58%(324/1,655)であった。試験を行ったすべての金属においてピアス経験者の陽性率は未経験者より高く、特に金では未経験者が0.59%の陽性率であったのに対して経験者では6.04%と10倍にも増加していた(図1)。